

立命館の時間

天野 誠（本学教職研究科准教授 教育学）

立命館大学HP等を見ると、その名称「立命館」は、中国の古典『孟子』の「尽心章句」に由来しているといえます。具体的には、次の一節がその根拠です。

「殀寿貳（ようじゅたが）わず、身を修めて以て之を俟（ま）つは、命を立つる所以（ゆえん）なり」（若死にする人もあれば長生きする人もあるが、それはすべて天命によって決められている。だからこそ、人は生きている間に身を修め、天命を待つのが本分である）。そこから立命館は「学問を通じて、自らの人生を切り拓く修養の場」として設立されました。そして 1900 年の開学以来、125 年の時が流れました。今年は立命館にとって記念の年です。世界は今、戦争や紛争、環境問題、エネルギー問題、少子高齢化など、複雑な課題に直面しています。予測することが難しく不安な時代です。我々はこの困難な時代をどのように生きていけばよいのでしょうか。

30 年ほど前に本川達雄さんが書かれた「ゾウの時間とネズミの時間」という本が話題を集めたことがありました。その要旨は次のようなものです。「ネズミの一生は数年。ゾウはその何倍も長く生きる。それではネズミはすぐに死んでしまって可哀そうなのだろうか。実は一生の間に心臓が打つ回数は体の大きさに寄らず、哺乳類はほぼ同じであり、およそ 15 億回と言われている。それぞれの動物の 1 分間における心拍数が異なっているから寿命に違いが出ている。動物たちはそれぞれの時間の中で生きており、小さい動物は短い一生を全速力で駆け抜けていき、大きい動物はゆっくりのんびりと生きていく。案外、一生を生き抜いた動物たちの感想は同じものかもしれない。」

という内容でした。この書籍の言わんとするところは大きさや時間の長さ、効率だけで生命の価値は測ることはできない。すべての生命がそれぞれのリズムや価値を持っているということなのでしょう。そして生きていることそのものに意味があるという哲学の表われです。我々教育者の立場と通ずるものがあります。一律のスピードや短期間における成果を求める教育ではなく、個々のリズムに合わせて寄り添う教育が求められるということなのでしょう。「急がせない」「熟成する学びを待つ」ことが教育には重要です。

では 125 年の歴史を誇る本学の学びはどうでしょうか。学校の学びを規定しているのは建学の精神です。立命館の建学の精神は「自由と清新」、教学の理念は「平和と民主主義」です。建学の精神と教学理念に基づき、「未来を信じ、未来に生きる」という立命館の中核となる考えが生まれました。「未来を信じ」が意味するところは、どんなに不確実で困難な時代にあっても、人間の可能性や社会の進歩を信じる姿勢が大切であり、科学・文化・教育の力で希望を持って前に進むということなのでしょう。そして「未来に生きる」は現在の行動が未来を形づくり、持続可能性、倫理、平和、共生といった価値を重視し、未来志向で生きるということなのでしょう。

先に述べた動物たちと同様、立命館大学にも「立命館の時間」があります。縦軸としては 125 年の歴史的な時間、横軸としてはまさに混とした現代を生き抜いているこの瞬間の時間。縦軸と横軸が紡ぎあって立命館大学の今の時間ができあがっています。20 世紀の始まりに鴨川のほ

とりに法制学校として誕生以来、二度の世界大戦等の幾多の困難の中をくぐり抜け、現在も日本を代表する大学として、その地位を守り続けています。そしてその縦軸の時間を一貫しているものこそが先ほどの精神です。アカデミックで自由闊達な校風のもと、自己を大切にしながらも、他人を慮り、やるべきことはどんな艱難辛苦があろうともやり抜き、社会に清新な風を吹き込み、貢献していく、これが歴史的時間を貫く立命館魂でしょう。横軸であるその時代、時代の時間は当然違います。しかし、どの時代においても、いま述べた立命館魂は各時代の通奏低音として変わることはなく、当然、現代の学生にも流れています。

どのような時代においても、やはり大学は真理の探究をめざす場所です。そこで過ごす時間こそが価値を有しています。本学の学生にはこれからの100年、そして未来にわたって我が国が発展を遂げていくために必要なものは何かを徹底的に追求し、いかなる状況変化や新しい課題に直面しても、多様な知を基盤として柔軟かつ的確に対応していき、世界をリードできる人材になってもらいたい。立命館大学の時間はそんな時間を過ごせる学校でありつづけてもらいたいと願っています。

創立125年の記念の年を本学の教員の一員として迎えられるのは光栄の至りです。日本のフラッグシップ校として、いつまでも愛される学校であってほしいと思います。本学の伝統を未来につなぎ、引き継いでいくために微力ではありますが尽力していこうと思います。「未来を信じ、未来に生きる」の精神をもって、確かな学力と豊かな個性を育み、正義と倫理を備えた地球市民の育成を目指す大学として、教育界に羽ばたく学生を輩出することを願っています。